

～アラントインの基礎知識と美容効果について～

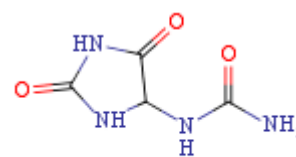
☆アラントインとは

アラントインは、医薬品や化粧品に広く使用されている成分で、歴史も古く効果と安全性がある成分と言われています。この成分は19世紀頃に牛の羊膜から発見され、「アラントイス（羊膜を意味する）」から名付けられました。

コンフリー（ヒレハリソウ）、小麦胚芽、豆類などの植物、哺乳類の尿や多くの生体組織中に存在していると言われていたりますが、化粧品に配合されるアラントインはほぼすべて合成品です。（高純度・安定性のため）

医薬品、医薬部外品（抗炎症・組織修復）、化粧品（肌荒れ防止、保湿）などに広く使用されていて化粧品では**保湿剤・鎮静成分**として、敏感肌用保湿剤、ハンドクリーム、リップケア、ベビーケア、アフターサン、シェービング後ケアなど幅広く配合されています。

※アラントインは、**医薬部外品抗炎症有効成分**として厚生労働省に承認された成分です。



分子量：158.12
化学式：C₄H₆N₄O₃

UTPの商品では、ラ・プレシアの**アミノクリアフォーム**と**リスキノン20**に含まれています。

☆皮膚への美容効果と作用メカニズム

*創傷治癒・組織修復促進

- ・表皮細胞・線維芽細胞の増殖と移動を促進し、傷口の閉鎖を早める。
- ・肉芽組織形成や**コラーゲン・細胞外マトリックス (ECM) 合成**を促進し、創傷治癒の各ステージをスムーズに進行させる。
- ・動物モデル（ラットの皮膚創傷）では、アラントイン含有ハイドロゲルの塗布により、創閉鎖スピードの改善・炎症の軽減・コラーゲン沈着の増加が示されている。

美容的には：

ニキビ跡・軽微な炎症後の赤み、軽度の炎症部位など「**肌荒れケア**」「**キズあとケア**」成分として使用される。

*保湿・バリアサポート

- ・角質層・細胞外マトリックス中の**水分保持能を高める**ことで、皮膚の柔軟性・しなやかさを改善。
- ・親水性で水系処方に溶解しやすく、他の保湿剤（グリセリン、ヒアルロン酸など）と**併用することで**保湿シナジーが期待できる。（※アラントイン自体が保湿成分というわけではありません）
- ・適度な保湿により、バリア機能が整い外的刺激に対する耐性が向上。

美容的には：**乾燥・つっぱり感・粉ふきの軽減、しっとり感とキメの改善。**

*軽いケラトリティック（角質軟化）作用

- ・角質層上層の脱落を**穏やかに促進**し、ざらつき・ごわつきを改善する。
- ・強いピーリング剤のような刺激ではなく、「マイルドな角質軟化」として日常使いしやすい。

美容的には：

ひじ・かかと・ざらつき部分の滑らかさアップ、**くすみ感の軽減**、メイクノリの改善などに貢献。

* 抗炎症・抗刺激（スージング）作用

- ・アラントインは、炎症性サイトカインの調整や炎症細胞の制御を通じて、炎症反応を鎮めることが示唆されている。（症例としては抗炎症効果の報告があるが、メカニズムは断定的ではないということ）
- ・外用試験では、
 - ① おむつ性皮膚炎（diaper dermatitis）で、アラントイン配合クリームが低濃度ヒドロコルチゾン軟膏と同等レベルに紅斑・病変スコアを有意に改善したランダム化比較試験が報告されている。
 - ② 放射線皮膚炎患者では、アラントイン含有エマルジョンが皮膚の治癒促進と不快感の軽減に寄与した報告もある。
 - ③ 刺激性のある有効成分（例：高濃度ビタミンC、レチノール、ピーリング剤など）と併用すると、その刺激感を緩和し、使い心地を改善するといわれている。

美容的には：

敏感肌・ゆらぎ肌、マスク荒れ、シェービング後、日焼け後などの「ひりつき・赤み」のケア成分として訴求しやすい。

☆医薬品で使用されているアラントインについて

アラントインは純粋な「アラントイン単独」の医薬品として処方されるケースは、現在では少なくなっていますが、その組織修復作用や抗炎症作用を目的として、様々な市販薬（OTC 医薬品）に配合されています。その一部を表にまとめました。
※リスクノン20との比較の際に参考になると思います。

用途カテゴリ	効能・目的（製品の効能効果例）	アラントインの役割	代表的な製品群の例
皮膚の傷あと改善（外用）	きず・やけどのあとの皮ふのしこり・つっぱり（顔面を除く）の改善	傷ついた皮膚組織の修復を助け、皮膚の再生を促す。	アットノンEX（クリーム/ジェル）など
ひび・あかざれ・手荒れ（外用）	手指の荒れ、ひび、あかざれ、しもやけ（ただれを除く）	損傷した皮膚の組織修復を促進し、皮膚の回復を早める。	ヒビケアFT軟膏、ケラチナミンコーワヒビエイドαなど
眼科用薬（点眼薬）	目の疲れ、角膜のダメージ、目の炎症、結膜充血	角膜などの炎症を抑え、組織の修復を促す。	サンテメディカルプラスガードEX、マイティアVプラス、ロートV11など
歯周病・口内炎薬（外用）	歯肉炎・歯槽膿漏における諸症状（歯ぐきの出血・はれ・痛み）の緩和、口内炎	弱った歯ぐきや粘膜の組織を修復・活性化し、健康に保つ。	デントヘルスR、ハレス口内薬、口内炎軟膏大正Aなど
痔疾用薬（外用）	いぼ痔・きれ痔の痛み、出血、はれ	患部（皮膚や粘膜）の組織修復を助け、治癒を促進する。	ボラギノールA、プリザエース軟膏など
鎮痒消炎薬（皮膚炎）	湿疹、かぶれ、かゆみ、皮膚炎	抗炎症成分の効果に加え、炎症後の皮膚の組織修復をサポートし、回復を早める。	リンデロンVsプレミアム、オイラックスAなど